



⑧ 研究者の視点

突然ですが、ウルトラセブンの「悪魔の住む花」というエピソードをご存知でしょうか。人の体内に侵入した宇宙細菌を退治するため、普段はビルよりも大きくなって怪獣と戦うウルトラセブンが、なんとミクロ化して人体に入るといふ異色のお話です。SF映画『ミクロの決死圏』の見事な翻案で有名な回ですが、ここで注目したいポイントは、相手のサイズと同じになるといふことです。今回の「海の勉強室」は、これまでと少し趣向を変えて、海の生き物を研究する視点についてご紹介したいと思います。

藻場に生きる小さな生き物たち

皆さんは海の中といわれてどんな光景を想像しますか？ 綺麗な白い砂浜を思い出す方もおられるでしょうし、色とりどりの魚が住む熱帯のサンゴ礁を想像する方もおられるでしょう。ここ大槌湾の海の中には砂や泥の場所も存在しますが、コンブなどの海藻が茂る藻場という環境が、浅い海底に広がっています。そこには、おなじみのアワビ（エゾアワビ）やウニ、そしてアイナメな

どが暮らしています。しかし、その何十倍、何百倍、へたをすると何千倍もの数で棲んでいるのが、数センチに満たない小さな貝やカニといった生き物たちです。この中には、大きな動物の子供もいれば、大人になっても数センチのものも含まれます。このコーナー第2回のお話で、アワビの子供が1ミリに満たないサイズで海底での生活を始めることが紹介されていましたね。海底の石の上や、海藻の上には、アワビの子供も含めて、人間の目ではちよつと気付きにくいほど小さな生き物たちがたくさん暮らしているのです。

1ミリの生き物の視点で見る海底

では、ウルトラセブンの様に変身して、体長1ミリのアワビと同じ大きさになって大槌湾の海底に降り立ってみましょう。見慣れた景色とはずいぶん違いますね。石がごろごろするいつもの海底は、遙かな山脈と底の見え



殻長3センチくらいのアワビの子供。
どんな景色を見ているのでしょうかね

ない深い谷の連続になっています。すっかり天を覆う巨大なコンブが、ゆらりゆらりと波に揺れています。ミクロ化したあなたの周りには、見たこともない色々な生き物が、うじゃうじゃ歩いていますね。その右側のカニのような生き物は、今、あなたが食べようとした海藻を狙っているのではありませんか？ あつ、あの岩陰から鋭い目つきでにらんでいるヤツがいますよ、気をつけて！...

こう書いてしまうと、何とも恐ろしい世界です。しかし、アワビの子供達はそんな環境の中に暮らしているのです。ミクロの視点で考えれば、アワビの研究には、彼らがどこでどんな生き物と暮らし、それらと餌を巡る競争や、食う食われるの関係があるのかなど、アワビ以外の生き物を理解することが重要であるとお分かり頂けるのではないのでしょうか。

皆さんも、日常とは違う大きさでの基準で周りを見てみると、面白いことに気づかれるかもしれませんよ。

東京大学大気海洋研究所・国際沿岸海洋研究センター助教

早川 淳



はやかわ じゆん
早川 淳

1983年神奈川県生まれ。専門は貝類の生態学。エゾアワビなどの海底にすむ貝類を対象に、どのような環境を好むか、何を食べているか、他との関係など、彼らがどうやって生きているかを調べています。

「質問コーナー」

皆さんからの質問をお待ちしています。住所、氏名、連絡先（電話番号など）を明記し〒028-1102 大槌町赤浜2-106-1 東京大学大気海洋研究所国際沿岸海洋研究センターへ。ファクス0193(42)5612でも受け付けます。選ばれば、次回以降のこのコーナーで質問にお答えします。